

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 先端科学技術研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
先端科学技術研究科	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある



## 1. 先端科学技術研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 5 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 平成 28～令和元年度の各年度 5 月 1 日現在の正規課程学生に占める外国人留学生の割合は、前期課程では 40%程度を維持し、後期課程では 45.0%から 58.4%に増加しており、研究科全体でも 40.1%から 42.9%に増加している。

〔特色ある点〕

- 全学生の 40%以上が外国人留学生といった学生の多様性に配慮し、前期課程及び後期課程ともに英語のみによる学位取得が可能な体制を整備している。体系的に編成された教育課程の下で英語による開講科目を堅持し、科目数は毎年度 60 科目以上を保っている。
- 海外の学術交流協定機関等と連携した「研究留学」、学生の海外での研究発表を支援する「学生研究・学外研修制度」、海外でのインターンシップへの参加を支援する取組を行っている。これらの制度を利用して海外へ派遣（短期・長期を含む）された学生の人数は、平成 28～令和元年度の 4 年間に、前期課程では合計 170 名、後期課程では合計 237 名に上っている。
- 科学技術イノベーション人材の養成を目的として、平成 30 年 4 月に、金沢大学と共同で融合科学共同専攻（修士課程）を設置し、北陸先端科学技術大学院大学において平成 30 年に 8 名、令和元年に 11 名を受け入れた。近接する大学という地の利を最大限に生かして、各大学が得意とする分野の科目を提供しあい、異分野融合型の教育を実施している。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

### 〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

博士後期課程修了者の就職希望者就職率が大きく向上した点に加えて、国内外での学会等における受賞が増加している。

### 〔優れた点〕

- 研究成果を国内外で発表する学生が増えた結果、学生の受賞も増加している。学生（旧研究科所属学生を含む。）の学会等における受賞実績は平成 28～令和元年度の 4 年間で合計 173 件に達しており、第 2 期中期目標期間中の同期間（平成 22 年～平成 25 年度）の受賞数（159 件）と比較すると、約 9.0%の増となっている。
- 前期課程修了者の「就職希望者就職率」は、毎年度 90%以上を維持し、平成 27 年度実績の 92.9%から令和元年度実績の 95.9%に向上している。また、後期課程修了者の「就職希望就職率」は、平成 27 年度実績の 77.4%から令和元年度実績の 94.6%に大きく向上している。